

岡山県知事賞

金賞

浅口市 金光 四年

古城 青暉

と	な	気	ど
飛	空	が	こ
び	気	し	ま
こ	の	た	で
ん	中	。も	走
だ	に	。う	れ
		め	る
		い	
		こ	
		い	

岡山県知事教育研究奨励金推薦 (14年)

金賞

倉敷 児島小 一

うゑたみゆき

む	て
し	ん
	と
	う

岡山県知事教育研究奨励金推薦 (14年)

金賞

倉敷 金敷天城 中年

秋田 姫依

客は夕方の散歩から帰って、私の書齋で私のそばに腰掛けていた。昼間の明るさは消えうせよとしていた。窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。

岡山県知事教育研究奨励金推薦 (14年)

金賞

倉敷 蒼島小 六年

西井 結惟

気力をふりしぼってサボテンに切りつけた。ぎっくりと割れた傷口からおどろくほどの水が流れた。旅人はサボテンの水を飲んだ。そして、再び旅を続けた。

岡山県知事教育研究奨励金推薦 (14年)

岡山県教育長賞

金賞

倉敷 沙美小 二年

はら田ほのか

わあ、おもし
ろそう。早く行
きたいな。早く行

岡山県立倉敷市立倉敷南小学校 5・6年組 4女

金賞

倉敷 児島小 三年

山水伊都

あたたかい風が、
ささあつとふきわた
り、日の光が、一面
にちりました。

岡山県立倉敷市立倉敷南小学校 5・6年組 1男22

金賞

倉敷 玉島小 五年

梅田梨瑚

ぼくが今よりずっと赤ちゃんに
近く、おじいちゃんが今よりずっと
元気だったころ、ぼくとおじいちゃ
んは毎日のように、お散歩を楽し
んでいました。

岡山県立倉敷市立倉敷南小学校 5・6年組 1男1

金賞

岡山 岡之崎中 中三年 小山叶愛

古い家はますます遠くなり、故郷の山や
水もますます遠くなる。だが名残り惜しい
気はしない。自分の周りに目に見えぬ高い
壁があって、その中に自分だけ取り残され
たように気がめいるだけである。

岡山県立倉敷市立倉敷南小学校 5・6年組 3

岡山市長賞

金賞

	に	り	さ	あ	た	た	か	い	風	が	
	ち	り	さ	あ	た	た	か	い	風	が	
	ま	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	
	た	し	た	た	た	た	か	い	風	が	

金賞

倉敷 中庄小 三年

出原 ゆめ

金賞

	き	ろ	わ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
	た	そ	う	。	。	。	。	。	。	。	。
	い	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

金賞

倉敷 蒼薔小 二年

いえあやね

金賞

仁和寺にある法師 年寄るまで、石清水を
 拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき
 思ひたちて、ただ一人徒歩より詣りけり。
 極楽寺、高良などを拝みて、かはかりと
 心得て帰りにけり。

岡山市 上道中学校 中二年 塩見 菜々子

金賞

ぼくが今よりずつと赤ちゃんに
 近く、おじいちゃんが今よりずつと
 元気だったころ、ぼくとおじいちゃ
 んは毎日のようにお散歩を楽し
 んでいました。

倉敷 中庄小 五年

緒方 心花

岡山市教育長賞

金賞

倉敷 長尾小 四年

ゆあさあおい

ど	こ	ま	で	も	走	れ
が	し	た	。	と	う	め
空	の	中	に	。	。	。
び	こ	ん	だ	。	。	。
飛	び	こ	ん	だ	。	。
と	飛	び	こ	ん	だ	。

岡山県立教育研究協議会主催 (5・6年用) (第14回)

金賞

浅口市 金光 一

こじょうそら

て	ん	と	う
む	し	ん	と
。	。	。	。
。	。	。	。

岡山県立教育研究協議会主催 (1年用) (第14回)

金賞

倉敷 玉島東中 中一年 梅田梨里

客は夕方の散歩から帰って、私の書斎で私のそばに腰掛けていた。昼間の明るさは消えうせようとしていた。窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。

岡山県立教育研究協議会主催 (1・2年用) (第14回)

金賞

倉敷 茶臼小 六年 岩谷真維

気力をふりしぼってサボテンに切りつけた。ざっくりと割れた傷口からおどろくほどの水が流れた。旅人はサボテンの水を飲んだ。そして、再び旅を続けた。

岡山県立教育研究協議会主催 (5・6年用) (第14回)

岡山県習字教育研究会会長賞

金賞

岡山県習字教育研究会会長賞
 赤磐 山形小学校 一年生
 たけがわはるか
 て む
 しん しん
 とう とう

金賞

岡山県習字教育研究会会長賞
 岡山 灘崎小 二年生
 石井 めい
 きろ わ
 たい そ あ
 いな。 早 お
 早く も
 行 し

金賞

岡山県習字教育研究会会長賞
 岡山 宇野三年生
 岡崎 葵
 さ あ た
 さ あ た
 り、日 の 光 が、ふ き わ た
 ちり ま し た。 一 面

金賞

岡山県習字教育研究会会長賞
 倉敷 天城小 四年生
 北村 文乃
 と な 気 ど
 飛 空 が こ
 び 気 の た ま
 こ ん 中 に と
 だ。 体 め 走
 こ いる

金賞

岡山県習字教育研究会会長賞
 井原 西江原 五年生
 谷井 祐月
 ぼくが今よりずっと赤ちゃんに
 近く、おじいちゃんが今よりずっと
 元気だったころ、ぼくとおじいちゃん
 は毎日のように、お散歩を楽し
 んでいました。

金賞

岡山県習字教育研究会会長賞
 勝田 奈義小 六年生
 寺坂 宜起
 気力をふりしぼってサボテンに切り
 つけた。ざっくりと割れた傷口から
 おどろくほどの水が流れた。旅人は
 サボテンの水を飲んだ。そして、再び
 旅を続けた。

金賞

客は夕方の散歩から帰って、私の書斎で私のそばに腰掛けていた。風間の明るさは消えうせようとしていた。窓の外には色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。

県誌

岡山市

灘崎

中年

岩崎

光佑

岡山県立文学部附属岡山短期大学 (1) 中卒

金賞

古い家はますます遠くなり、故郷の山や水もますます遠くなる。だが名残り惜しい気はしない。自分の周りに目に見えぬ高い壁があって、その中に自分だけ取り残されたように気がめいるだけである。

県誌

倉敷

東中

中年

佐野

文哉

岡山県立文学部附属岡山短期大学 (1) 中卒

金賞

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

県誌

備前

伊里

中年

藤井

あみ

岡山県立文学部附属岡山短期大学 (1) 中卒